

# 市民に親しまれてきた「クジラ池噴水」

## — 稀代のコンクリート造形職人・後藤鉄五郎をめぐって —

道德公園は名古屋市南区道德新町5丁目にあり、名鉄常滑線道德駅から西へ歩いてすぐのところにある。公園の中央にはテニスコートがあり、その南側に「クジラ池噴水」は位置している。クジラ池は1927(昭和2)年に建造され、池には、青いクジラの遊泳する姿がコンクリートで見事に造形され、噴水はクジラの潮吹きとして表現された。

作者は、コンクリート造形職人の後藤鉄五郎(1892~1976)で、「聚楽園大仏」(東海市・1927年建造)と「刈宿の大仏」(西尾市・1928年建造)の製作も手掛けた。クジラ池噴水は2021(令和3)年に国の登録有形文化財(建造物)として登録された。



[写真1] クジラ池噴水の全景とクジラ像 (右側)

(2024/9/6 筆者撮影)

### ■クジラ池噴水

クジラ像は噴水池の中央にあり、像の寸法は全長9.7m、幅3.

5m、高さ1.9mで、胴部は中空になっている。道德公園にクジラ像が作られた理由は詳らかではないが、この地は江戸時代に干拓が進むまでは「あゆち潟」と呼ばれる海岸部であり、クジラを見ることもあったと地元では語り伝えられている。クジラ像は建造後100年近くが経過した今、地域のシンボルとして定着し、愛すべきキャラクターとなっている。



[写真2] クジラ像 (左側) (2024/9/6 筆者撮影)



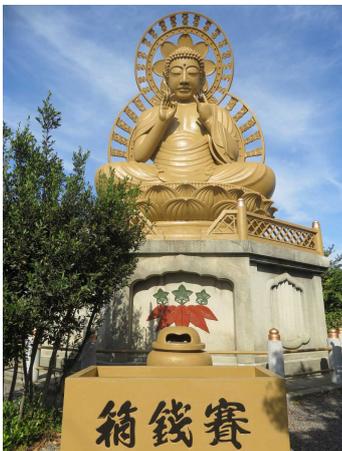
[写真3] クジラ像の内部 (2024/9/6 筆者撮影)

### ■マキノ中部撮影所と特撮映画「大仏廻国・中京編」

道德公園の一部とその南にある道德小学校・大江中学校の敷地には、「日本映画の父」と称された牧野省三(1878~1929)が1927年(昭和2)年に開設した映画撮影所(マキノ中部撮影所)があった。牧野自身は翌年に撮影所の経営から撤退している。

後藤が製作した大仏2軀は、1934(昭和9)年に公開された特撮映画「大仏廻国・中京編」に登場する。内容は、聚楽園大仏が開眼して立ち上がり、名古屋市内や弟分とも

いえる刈宿の大仏を訪ね、地獄を巡った後に東京へ向かうという驚きのストーリーである。監督は、円谷英二(1901~1976)が師事した枝正義郎(1888~1944)が務めた。残念なことにフィルムは戦災で焼失してしまったが、地元名古屋では好評だったという。後藤がこの映画を観ていたか否かは、これも残念なことにわからない。



[写真4] 刈宿の大仏

(2024/11/17 筆者撮影)



[写真5] 聚楽園大仏

(2024/11/8 筆者撮影)

(天野卓哉)